

第1回 笑顔あふれる保育資質向上研修会

令和5年10月18日に山陽北幼稚園で笑顔あふれる保育資質向上研修会が行われました。阪本主任教諭に保育を公開していただき、若手教諭が子どもの姿を見とる力や、環境構成・援助について実際の保育から学ぶことができました。

保育参観



登園時は先生と子どもたちの元気なあいさつが響き渡ります。遠くにいる子どもにも声を掛けていました。“先生は見てくれている”という安心感につながります。一人一人とあいさつを交わし、健康状態を把握しながら、園庭にも目を向けて安全確認もされていました。運動会に向けて友達と一緒に力を合わせながら進め、楽しさや満足感を味わった経験から、さらに運動遊びが活発になり、リレーやしっぽ取り、雲梯などの体を動かす遊びを思い切り楽しんでいました。先生が力いっぱい走り、本気で遊ぶ姿に刺激を受けて、さらに遊びが盛り上がります。子どもと夢中で遊びこむ姿に見ている方もひき込まれました。

困ったときがチャンス！その場でルールを確認したり、どうして困っているのか、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、友達と思いを伝え合えるように、丁寧にかかわったりする先生の声掛けや援助を見て学んでいます。



クラス活動では、一学期から子どもたちが考えていたお化け屋敷づくりをしていました。看板やチケット、迷路、お化けなど、グループごとに分かれて友達と相談しながら目的をもって作り始める姿が見られ、いたるところに先生の育てたい力につなげるためのしかけがあり、若手の先生たちは、子どもや先生の言葉や動きに注目しながら一生懸命探っていました。小学校の校長先生も来てくださり、就学後の学びにどうつながるかを話しながら見ることができ、良いつながりがもてました。



協議

① 鷹取指導主事による「すぐに保育に使える手遊び」紹介
「ぼくのサイクリング」「めざせチャンピオン」（作詞作曲：新沢としひこ）

手遊びや触れ合い遊びが始まると、みんな自然と笑顔があふれていました。

② 協議

参観者が教師の援助や環境構成をみとる力がつくように指導案をあえて空白にしておき、気づいたことを発言し合いました。その後、阪本主任教諭の思いを聞き、鷹取指導主事から指導助言を受けながら、保育の意図を共有しました。また、お化け屋敷づくりの場面をみて、幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿をもとに気づいたことを伝え合いました。

発達段階に応じて援助や環境構成は変わる。子どもの姿を見とることが大切！

○先生に言われなくても絵の具を使うときは自分でスモックを着る。

友達と机を運び、切る人と書く人に分かれて座る。相談しながら進める。

健康な心と体、自立心、協同性
言葉による伝え合い

○お客さんに喜んでもらうために、チケットに文字だけでなく可愛い絵を描く。

社会生活とのかかわり

○設計図・看板・チケットをつくる。

数量・図形・文字への関心・感覚、豊かな感性と表現

○段ボールの大きさやテープを貼る向き等を考えたり、工夫したりする。

思考力の芽生え

○材料や用具を大切に使う。分類して片付ける。

道徳性・規範意識の芽生え



阪本主任教諭より、どんな思いで場を設定したか、普段から心掛けていることなど、保育に対する熱い思いを伝えていただきました。その思いを聞いて、自分から気付いたことを発言したり、真剣にメモをとったりして、進んで学ぼうとする姿が見られたことがとても嬉しく感じました。明日からの保育につながる研修となりました。